事例No.	2793
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	上乗　秀雄

事例区分	地域活性化

タグ	・関係人口 ・観光 ・教育・子育て

事例種類	関係人口

事例内容・タイトル

耕作放棄地を再開発し、農業の六次産業化・観光振興・子どもの健全育成に取り組む。

出典

令和４年度ふるさとづくり大賞事例集



耕作放棄地を再開発し、農業の六次産業化・観光振興・子どもの健全育成に取り組む。

上乗（じょうのり） 秀雄（ひでお）氏

DATA

事　例　名：ケロンの小さな村
所　在　地：石川県鳳珠郡能登町斉和た部26
連　絡　先：TEL 0768-62-1471
　　FAX 0768-84-5012
　　E-mail keron.mura@gmail.com
ホームページ：https://keronmura.wixsite.com/noto

取組の概要

定年退職後、能登町斉和地区の耕作放棄地を取得して里山づくりを開始し、無料開放型の自然体験施設「ケロンの小さな村」及び「ケロン子ども森の学校」を整備。収穫した米や野菜、果樹を活用した農業の六次産業化や飲食店の運営、観光振興のための里山の景観整備や遊び場の提供、自然体験や環境教育を通じた子どもの健全育成に取り組んでいる。

評価された点

- 耕作放棄地の再生から始まり、多面的な活動が継続している。教育上も観光振興上も大きな影響を与えている点を評価。
- ご夫婦だけで一から耕作放棄地を開拓し、地元の青少年育成や観光物産振興のために構築してきた活動は敬服に値する。自然の中でさまざまな経験をさせてもらった子どもたちは地元の食などを知り郷土愛を育てることにもつながる点を評価。
- マイナスである耕作放棄地を自ら取得して、食糧や子どもの遊び場や自然体験などを提供している素敵な活動である。環境、教育、食糧安定、経済など、さまざまな面で持続可能な地域づくりに貢献している点を評価。

取組のプロセス

取組を実施するに至った要因・背景や地域課題
その取組を実施するに至った要因・背景や地域課題について記載。

行政や外部からの支援
行政や外部からの支援などについて記載。

きっかけ 1999年10月　ドイツのメルディンゲン村で見た体験と感動を重視した環境教育に感銘を受ける。

・「体験こそが最上の教育方法」だとドイツで学び、「自然体験村」づくりを決意。

2008年～

耕作放棄地を取得し開村

・3000㎡の耕作放棄地を取得し再開発を開始。
・夫婦二人三脚で始める。



・ケロン村づくりの3つの誓い。
①自力開発②ノー借金
③長期計画

2014年～

ケロン子ども森の学校開設

・毎年、夏・秋の森と川、ビオトープで自然教室を開催。



・地域資源の有効活用。
・荒れた山林も、道を付け下草を刈り広場を造れば遊び場や学習の場に変わる。

2014年～

ケロンの小さな村が現在の広さに

徐々に拡大し、現在
・ケロン村　5,000㎡
・森の学校　10,000㎡



・石川県の各種補助を受け、能登町からは情報発信や広報活動、視察者の紹介を受ける。

・農業の六次産業化。
・観光振興のための美しい里山づくり。
・子どもたちの健全育成への取り組み。

2019年～

ディスカバー農山漁村（むら）の宝選定

・第6回ディスカバー農山漁村（むら）の宝個人賞受賞。
・東京有楽町駅前広場の特設マルシェに出店。





今後の計画

・音楽や美術などの文化活動の拠点化を進める。
・今後も里山の再生を続け、子どもたちが遊び、学べる場所をつくっていきたい。

今後の展望

文化活動強化計画
【2021年～】
フォレストランド建設5ヵ年計画
【2022年～2026年】
頂上桜回廊づくり7ヵ年計画
【2022年～2029年】

受賞者のコメント

十数年前、荒れ果てた耕作放棄地に分け入り、草を払い木を切り、株を起こし水路を掘り、夫婦二人で始めた里山づくりに今回大きな栄誉を頂き夢のようです。復活した田んぼのお米でパンやピザを焼き、倒木やクマザサで暗かった森も明るさを取り戻し昆虫や花を探す元気な子どもたちが走り回ります。農業の六次産業化、美しい里山で観光振興、豊かな自然で子どもたちの心に火を灯す、そんな取り組みを今後とも力を合わせて末永く取り組んで行きます。